

## 研修の目的

むなかた地域で新規就農を希望する方に対して、JAむなかたまたは指導農家で農業技術や経営方法等に関する研修を行い、円滑に独立就農ができるよう一体的に支援を行います。また、独立後も安定した農業経営が行えるように助言等を行います。(国の農業次世代人材投資資金(準備型)の申請が可能です。)



## 対象となる方

- 1 研修終了後、宗像市または福津市で農業経営を行う強い意志のある方。ただし、農業経営における品目はJAむなかたの部会品目とします。
- 2 心身ともに健康な18歳以上の方。
- 3 普通自動車運転免許を所持している方または研修開始時までに取得することができる方。ただし、AT車限定は不可とします。
- 4 市税その他公課の滞納がない方。
- 5 農業経営開始後に労働者(家族労働者等)が本人を含め2人程度確保できる見込みがある方。
- 6 就農に際し、必要な資金(生活費、住居費等を除く)を確保できる方。



## 研修について

- 1 研修は基礎研修が3ヶ月間、基礎研修修了者に対し専門研修を1年間とします。
- 2 原則通いで研修となります(寮、寄宿舎はありません)。
- 3 研修内容については、将来経営する品目に応じて、関係機関および指導農家の協議にて作成します。
- 4 研修時間は原則1日8時間以内、週5日以内とします。ただし、天候や栽培管理の都合等により、随時変更になる場合があります。
- 5 研修生には賃金・報酬等は原則支払いません。
- 6 研修に係る経費については実施主体が負担します。ただし、研修先までの交通費、研修を受けるための転居、研修期間中の住居に係る経費、傷害保険に係る費用等は研修生の負担とします。



## 就農までのスケジュール

平成31年1月~2月	募集
3月	書類審査、個別面接(第1次選考)
4月~6月	基礎研修(JAでの短期研修。第2次選考を兼ねる)、個別ヒアリング(随時)
7月~	専門研修(選定した品目の指導農家での長期研修)
平成32年4月~	就農準備(面談等を通じ、支援を行います)
7月	就農

## 支援体制

### 宗像市、福津市

- 農業次世代人材投資事業の支援
- 農地、住居確保の支援
- 青年等就農計画の支援

### JAむなかた

- 研修生の全体的な指導
- 栽培技術、経営の指導
- 施設、農機種の習得支援(リース事業)
- 空き農地、空き施設等の情報提供

### 研修生 指導農家

### 北筑前普及指導センター

- 栽培技術、経営の指導
- 研修会、講座等の開催
- 青年等就農計画の支援

### むなかた地域農業活性化機構

- 研修事業計画、実施
- 空き農地、空き施設等の情報提供
- 農地、住居確保の支援
- 青年等就農計画の支援

## カリキュラム

### 栽培実習



- 定植から収穫までの一連の作業実習

### 土づくり



- 土壌の構造
- 肥料の種類と効果

### 農薬と防除



- 病害虫の種類と発生メカニズム
- 防除対策 ● 農薬取締法

### 施設関係



- ハウス構造 ● 設備の構造
- 使用方法

### 農業機械関係



- トラクター、管理機、刈払機等の構造と作業実習

### 農業経営



- 計画経営 ● 農業簿記
- 記帳 ● 税務申告

## 研修修了生の感想



竹下 英臣さん(33)

研修期間 H27.4~H29.3(3期生)  
● 出身地 / 古賀市(小・中・高は奥知町)  
● 栽培品目 / ミニトマト

### 人と出会って人を目指して

大学は農学部で、農業と関わりたがるうち興味を持った、というのが始まりです。30歳を目前にしたとき、「農業がしたい」という想いが沸々と湧いてきました。むなかたの研修は受け入れ態勢がしっかりしているのかなと思って話を聞きに行ったらとんとん拍子で。研修前には農作業ヘルパーも経験し、鍛えてもらったと感じています。研修を終えて、技術習得はもちろんそれ以上に人との出会いに感謝しています。今でも皆さん気にかけてくれるんです。土地の輪転も助かりましたね。一人で探しても見つからなかったと思います。今は、しっかりと基本にならって標準レベルまでいきたい、他の農家さんたちと同等に作れるようになりたいと思います。研修と一人でやるのでは全然違うから一作一作がけです(笑)。



美和 大介さん(38)

研修期間 H27.4~H29.3(3期生)  
● 出身地 / 長崎県  
● 栽培品目 / イチゴ

### 面倒だから面白い

職が転勤の多い仕事だったんです。小学生の子供の将来を考えて、もともと興味があった農業をしようと思った。むなかたの研修制度を選んだのは、研修内容がゼロからスタートする自分の想いに一番近いと感じたからです。研修を終えた4月からは、9月の定植に間に合うよう、何年も使われていなかったハウスを組み直して。何も無い状態だから、あとは足していくだけ。最初は苦労をすべらないが良いと思いました。今年5月の出荷でやっと1周し、単純じゃない、面倒なところが面白さを感じています(笑)。課題も見えてきたので、それを来季の収量にどう繋げられるかが勝負です。竹下さんとは研修の2年間一緒だったのでよく遊びに行っています。機材の貸借もして、どれだけ人に助けられているか、日々実感します。

